広報みやこじま

特別号

2025年（R7）10月

市制施行20周年を記念して、はなぞのこどもえんの園児のみなさんに
「20th」の文字を作ってもらいました。ご協力ありがとうございました。

20th Anniversary MIYAKOJIMACITY

広報みやこじま　特別号への
ご意見・ご感想はこちらから

〔編集・発行〕
宮古島市役所 企画政策部 秘書広報課 広報係
電話 0980-72-3751（代表）　https://www.city.miyakojima.lg.jp/

市長挨拶

宮古島市は、平成17年10月1日に平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の5市町村が合併して誕生し、今年で20周年を迎えました。節目の年を市民の皆様と共に祝うことができますことを大変嬉しく思います。宮古島市の発展を共に支え、歩んでくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

本市ではこの20年の間、宮古島市クリーンセンターや宮古島市未来創造センター、市役所新庁舎、平良港総合物流センターなど、市民の生活基盤となる施設の整備を進めてまいりました。また、地域住民の悲願であった伊良部大橋の開通や下地島空港旅客ターミナル開業、大型クルーズ船の寄港などにより入域観光客数は100万人を超え、宮古島市は国内外の多くの方に選ばれる観光地となりました。

一方、観光業の急速な発展による環境への負荷、少子高齢化や住宅問題、人手不足など、新たな課題に向き合っています。農畜水産業の持続的な発展に向けた取組や、子育て環境整備による子育て世代への支援、高齢者福祉のための施策や生活の根幹を支える医療・福祉・保育従事者などのエッセンシャルワーカーの確保など、多様化する市民ニーズへの対応が求められています。

市政を担う市長として、宮古島市の美しい自然と各地域で守られてきた豊かな伝統を次世代へ引き継ぎ、市民の皆様の生活をさらに豊かで安心できるものにするため、ここで住み・働き子育てがしたい、ここを誇りに思う、島を出てもまた戻りたいと市民が実感できる取組を推進し、「市民が真ん中の豊かで明るい宮古島市」を目指してまいります。

結びに、本特別号を通じて、これまで紡いできた宮古島市の歩みを市民の皆様と振り返り、未来への期待を共有することができれば幸いです。この記念すべき20周年を共に祝い、新たな一歩を共に踏み出しましょう。これからも皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮古島市長 嘉数　登

議長挨拶

市制施行20周年を迎えるにあたり、市議会を代表してご挨拶を申し上げます。

合併前の旧平良、城辺、下地、上野、伊良部の5市町村は、政治、経済、文化、歴史等において、深い繋がりをもち、広域行政を通じて連携し、共に発展して参りました。

しかしながら、平成3年頃のバブル崩壊後、日本経済停滞の影響は宮古圏域にも及び、財政状況の悪化等、地方を取り巻く状況は厳しさを増しておりました。

このような中、地域の活力を維持しつつ、豊かなふるさとを次世代に継承し、住民の皆さまに対し、充実した行政サービスを提供していくには、市町村合併は大きな手段であり、平成17年10月1日、まさに宮古がひとつとなり、新市・宮古島市が誕生しました。

それから20年、直面した課題もひとつひとつ乗り越え、本市の基本理念とする「心かよう夢と希望に満ちた島　宮古（みゃ～く）～みんなで創る結いの島～」の実現に向け、着実に前進しております。このことは、市民の皆さま、国、県をはじめとする各関係機関のお力添えのおかげであり、ここに深く感謝申し上げます。

さて、私たちは今、大きく変貌する時代にいます。急速に進展する少子高齢化やデジタル社会の今を生きており、この変革する社会に対応する盤石の体制を構築していく必要があります。

そのためには、先人から受け継いだ伝統、文化などを生かし、人と人との繋がりを大切にしながら、市民と行政が手を携え、宮古島市全体の均衡ある発展を目指していくことが肝要であります。

市議会といたしましても、二元代表制を担う機関として、全ての市民が笑顔にあふれ、夢と希望のもてる宮古島市の建設に向けて、責任ある判断をして参る所存です。

結びに、宮古島市の未来永劫の発展と、市民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、あいさつといたします。

宮古島市議会議長 平良 敏夫

宮古島市20年の歩み

宮古島市は令和７年 10 月１日に市制施行 20 周年を迎えます。
美しい自然と温かい人々に支えられながら歩んできた 20 年を振り返ります。

2005年（平成17年）
宮古島市誕生

「平良市」・「城辺町」・「下地町」・「上野村」・「伊良部町」の旧５市町村が合併し、宮古島市が誕生。

2006年（平成18年）
○伊良部大橋整備事業開始
○市歌制定

2007年（平成19年）
○台湾・基隆市と姉妹都市締結

2008年（平成20年）
○ふるさと納税の受付開始

2009年（平成21年）
市イメージキャラクター「みーや」誕生

2010年（平成22年）
宮古島市制施行５周年

2011年（平成23年）
○宮古島市海中公園オープン
○静岡県藤枝市と友好都市締結

2012年（平成24年）
○与那覇湾が
ラムサール条約
湿地へ登録

2013年（平成25年）
○県立宮古病院が
新築移転し供用開始

2014年（平成26年）
○来間中学校が
下地中学校に統合

2015年（平成27年）
宮古島市制施行10周年
伊良部大橋開通

2016年（平成28年）
○新ごみ処理焼却施設の供用開始
○新宮古食肉センター落成

2017年（平成29年）
○スポーツ観光交流拠点施設供用開始
（JTA ドーム）
○栃木県市貝町との交流都市締結

2018年（平成30年）
○「宮古島のパーントゥ」
ユネスコ無形文化財遺産へ登録
○宮古島リサイクルセンター完成

2019年（平成31年 / 令和元年）
○結の橋学園開校
○下地島空港旅客ターミナル供用開始
○宮古島市未来創造センター供用開始

2020年（令和２年）
宮古島市制施行 15周年
○来間小学校が下地小学校に統合
○伊良部大橋海の駅供用開始
○第36回全日本トライアスロン宮古島大会
新型コロナウイルスの影響により中止

2021年（令和３年）
宮古島市新庁舎が開庁
○城東中学校開校

2022年（令和4年）
○平良港総合物流センター
供用開始

2023年（令和5年）
○第37回全日本トライアスロン宮古島大会開催
○熊本県山鹿市と友好都市締結

2024年（令和6年）
○クバクンダイ鍾乳洞が
市文化財に指定
○台湾屏東県牡丹鄉・
宮古島市交流協定覚書締結

2025年（令和７年）
宮古島市制施行 20 周年

20周年アニバーサリートーク with 嘉数市長

宮古島市と同じ二十歳を迎える若者たちと市長が語り合うアニバーサリートークを企画しました。

二十歳世代を代表して、リモート参加の2名を含む7名の方にご参加いただき、ご自身や宮古島市の歩みを振り返るとともに、将来や未来に向けての希望や想いを語り合いました。

まずは市長から自己紹介

（市長）

はじめまして、宮古島市長の嘉数登です。62歳になります。生まれは旧城辺町の西城で、中学校からは平良に引っ越し、平良中、宮古高校と進み、大学は県外へ進学しました。大学卒業後は沖縄県庁に就職しまして、34年間県庁に勤めた後、59歳の時に縁があって宮古島市の副市長に就任することになり帰ってきました。

今年の1月25日から市長を務めているので、まだ半年ちょっとくらいです。ほやほやというわけではありませんが、まだまだこれからというところです。

皆さんが生まれた平成17年の10月1日に、平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の旧5市町村が合併し、宮古島市が誕生しました。今年は宮古島市が皆さんと同じ20周年を迎える年ですね。この20年で宮古島市の良くなったところ、改善しなければいけないところもあるかと思います。皆さんがご自身の将来展望や将来どう生きていきたいか、ふるさとに対してどのような想いを持っているか、若者の視点から是非聞かせていただきたいと思っています。

このような企画は初めてで私は緊張しています、皆さんも緊張していると思いますが、していないですかね？　形式張った話ではなく、自由闊達に語り合いたいと思っておりますので、是非よろしくお願いいたします。

宮古島を離れて感じたこと

初めに、県外や島外で暮らしている方から自己紹介と、宮古島を離れて感じることを聞かせてください。

（砂川りょうま）

砂川りょうまです。城辺の西城出身です。宮古高校の普通科を卒業し、東京の武蔵野美術大学デザイン情報学科に入学し、今年2年生になりました。主にデジタル技術を利用したって言ったらちょっと固いかもしれないんですけど、CGだったり、イラストチックなものを専攻しています。よろしくお願いします。

私が県外に出て宮古島との違いを感じたのは、移動手段や様々な施設の多さです。移動のためや、行ってみたい施設の情報をインターネットで調べることが多く、そうやって得た情報を実生活で活用する経験ができたのはすごく大きいと思っています。もう1つは、宮古島の人と都会の人で人柄の違いを感じることも多いです。人間関係を作っていく上でも、これまでとは違った新しいやり方を模索していくことは、この1年、結構大変でしたが自分にとってとてもいい経験になったと感じています。

砂川りょうまさん
出身：城辺（西城）
所属：武蔵野美術大学

（仲地あお）

仲地あおです。出身は下地です。宮古高校の理数科を卒業し、帝京大学に進学しました。私は将来航空業界で働きたいと思っているので英語を学んでいます。

私は上京して驚いたことが2つほどあって、まず何をするにしてもお金がかかるところですね。移動の度に交通費が毎回かかるし、親元を離れてからひと月でこんなにお金かかっていたんだという衝撃がありました。もう1つはネット通販がとても早く届くところです。引っ越した当日にカーテンがなくて困っていたのですが、ネット通販で購入して、1週間くらいで届くと思っていたのが翌日には届いたので驚きました。あとはりょうまさんも話していましたが、私は人間関係で距離のつかみ方がわからない時期もあって、一人暮らしで落ち込んだりしているときに家族に電話したり、地元の友達に元気してる？ってLINEしたりして、離れていても宮古の絆は簡単には崩れないんだなって思いました。宮古を離れてから、宮古愛がもっと溢れました。

仲地あおさん
出身：下地（川満）
所属：帝京大学

（市長）

今はスマホですぐ連絡できるからいいですよね。僕が学生の頃は公衆電話だったから、10円玉ガチャガチャって入れて、親に「ごめん、お金なくなった、送って！」って感じでしたね。

（砂川ななみ）

砂川ななみです。出身はりょうまさんと一緒で城辺の西城です。宮古高校の理数科を卒業後は名護市の名桜大学に在籍しています。今は養護教諭の資格を取るために健康領域を専攻して勉強しています。

島を出て最初の頃は、やっぱり家族と離れたことが寂しかったです。知らない土地に引っ越して大学という新しい環境に慣れないといけないし、家に帰ったら家事もしないといけない。完璧を求めすぎて疲れた時期もあったんですけど、宮古に帰ってきたときにはリフレッシュしてまた頑張ろうって思えたことが結構印象に残っています。あと住んでいるところが名護で、自然が多くて山みたいな環境なので、湿気がすごくて大変です。ずっと除湿機が稼働しています。

（野原れな）

野原れなです。上野の宮国出身で、現在は大阪国際大学で学んでいます。大阪に住んでいるのですが、人が優しく、大学は沖縄の方が多くて、姉が京都にいるので楽しく生活できています。大阪には娯楽施設も仕事も沢山あって暮らしは充実していますが、宮古ならではの自然や時間の流れなどが恋しくなる時があります。将来は1度大阪などで就職をして、その先で宮古島に帰って暮らしたいなと思っています。あとはやっぱり家事が大変です。洗濯物が回しっぱなしになっていたりすることもたまにあります。

（上地たくま）

下地出身の上地たくまです。現在は琉球大学医学部の1年生です。沖縄で新しい友人ができたことに加え、地元から沖縄に進学している友人も多いので、楽しんで大学生活を送っています。

自分も家事だったり、あとは様々な契約などを自分でやらないといけない点や、生活費をちゃんと自分で考えながら管理しないといけないので、そういう部分が大変だなって思っています。あとは、沖縄本島は宮古島よりも便利で娯楽施設も多く楽しく感じる一方で、騒音や渋滞で疲れることもあります。

宮古島で育った強みを教えてください

（砂川りょうま）

私の大学では沖縄出身というだけでも結構珍しい方ですが、さらに宮古島ってなるととても珍しがられます。「どういう暮らししているの？」とか「〇〇ってある？」みたいな話題で盛り上がります。自分は美術に関わっているので、美的感覚とかも向こうの人とはちょっと違って、南の島ならではの感性や感覚といった個性を大事にしながら制作活動をしていきたいと思っています。

（仲地あお）

航空業界への就職を志望している中で感じたことですが、小さい頃から部活の遠征などで飛行機を利用することが多く、飛行機慣れもしますし、外の環境に触れる機会が多いという点は宮古島の特別な点だと思

います。内地では飛行機に乗ったことがないという方も多くいらっしゃいますし、就職活動の中で島の魅力や観光業の特性の様々なエピソードを話せるのは強みに感じています。

（野原れな）
私も宮古島出身ということをきっかけに話題が広がることが多いです。ホテルでアルバイトをしているんですけど、出身を伝えると興味を持ってくれる方が多く、話を広げることができるので、すごくいいところだなと思います。宮古と東京で環境が異なっているので、都会の良さを知ることができるし、田舎の良さも知ることができるので、将来は宮古島と内地のどちらでも仕事をする選択肢が持てるので、仕事の幅が広がるのではないかと思います。

（上地たくま）
自分も似ていますが、いろんな人に興味を持ってもらえる点です。あとは帰省する際に、友人が遊びについてきてくれることもあります。ゴールデンウィークにも友人が帰省についてきてくれて、宮古島を観光したりするなかで仲が深まりました。逆に友人に都会のいろんなことを教えてもらうことも多いので、いいきっかけになっていると感じます。

野原れなさん
出身：上野（宮国）
所属：大阪国際大学

（砂川ななみ）
皆さんがおっしゃられているように話題が生まれるということもありますが、やっぱり島で育ったからこそ、地域の人の温かさとか、家族との繋がりとか、同級生と仲が良いことが強みになると思っていて、大学に進学した後も夏休みや冬休みには同級生と一緒に遊んだり、ペンションを借りて映画を見たりしています。宮古島で育った繋がりがまだ強く残っていて、それを励みに今も頑張れています。

（市長）
島を出た方のお話を聞いて、非常にポジティブな印象を受けました。実は僕が島を出ようと思ったのは、もっと広い世の中を見てみたいと思ったからでした。あの頃の宮古島は、ないものが多すぎるという状況で、当時の僕はとにかく島を出たくてしょうがなかったです。実際に島を出て、約40年ぶりに帰ってきて、また宮古に住み始めましたが、当時気づかなかった良さがだんだんと分かってきました。

外に出たいと思った動機は、いろいろ掘り下げて考えたら、その原動力はコンプレックスだったんだなと思っています。「本土より劣っているんじゃないか」、なにか劣等感のようなものがずっと自分の中にあったんだと思うんです。逆に言うと、それが自分が頑張る原動力になっていたんだろうなと最近は考えています。60年生きてやっと気づきました。ポジティブな気持ちもあるし、僕みたいにネガティブな気持ちの場合もあって、宮古島を離れる人それぞれに様々な思いがあることを感じました。

宮古島を離れて思うこと　宮古島への想いの変化

（砂川りょうま）
やっぱり離れてから宮古島の見方はすごく変わりました。当たり前のものが当たり前じゃなかったんだなっていうのは一番感じていて、人の温かさや自然の豊かさも本土では当たり前じゃないですし、そういった違いを感じることがとても多いです。都会にもたくさんいいところはありますが、宮古のいいところも当たり前のものではなかったことに気づけたことは、見方が変わったと感じます。

（仲地あお）
高校生まではやっぱりちょっと窮屈に感じることもありましたが、親戚同士でイベント毎に集まったりすることも、すごい大切だったなと思っています。

少し悲しい話になるのですが、私の飼っていた愛犬が、上京している間に亡くなってしまったんです。本当に当たり前だった存在で、今回の帰省でも会えると思っていました。日々の時間や関わりをもっと大切にしようと考えるようになりました。

（野原れな）
都会が多すぎるっていうのもあるかもしれませんが、やはり宮古島だと選択肢が少ないと感じています。遊びや娯楽施設、学業や仕事に関してもそうですが、やっぱり都会は選べるものが多いじゃないですか。なので今は宮古島では経験できないことを経験できているな、と感じています。逆に宮古島は狭い分、繋がりが深くなり、そこがいい部分でもあるなと思います。

（上地たくま）
宮古を出るまでは娯楽施設も何もない所だと思っていたんですけど、離れてみて結構住みやすい島だったんだなって思いました。娯楽施設が少ない、台風が多いっていうところはありますが、生活だけで言うと特に不便もなく、逆に宮古島だからこそ学校で仲良くなれる機会が多かったり、地域行事が多かったりするので、人と人との繋がりが強くなり、子どもたちが素直に育っていく環境が成り立っているところが宮古島の魅力だと思います。

（砂川ななみ）
宮古を出てから宮古をもっと好きになったと思っています。同じ沖縄なので人が温かいところは共通していますが、帰省して親戚に会った時にはおかえりって言ってくれて、そういった所は宮古ならではなのかなと思います。県外の友人に、誕生日に親戚で集まってお祝いするっていう話をすると仲の良さに驚かれたことがありました。人の温かさ、付き合いの深さは良い面でもあるし、逆に疲れてしまう人もいるのかなと思います。

（市長）
帰ったらいろんな人から「これ食べて」「あれ食べて」って言われますよね。

砂川ななみさん
出身：城辺（西城）
所属：名桜大学

宮古島で就職した二人が感じる　宮古島の変化

続いて、宮古島に残って就職したお二人から、自己紹介と宮古島で暮らしている中で感じる変化を教えてください。

（砂川ひより）
砂川ひよりです。出身は久松です。宮古高校の普通科を卒業した後、1年間だけですが沖縄本島の専門学校に通っていました。今年度から宮古島市の職員として働いており、環境保全課に所属しています。

私は久松小の出身なのですが、私が小学生の頃はそこまで人数が多くなく、親睦を深めるのにちょうどいい人数でしたが、最近は移住してきた方のお子さんが増えていると聞きました。宮古出身じゃなくても、こんなにたくさんの方がきてくれていることに驚きました。

（友利みき）
友利みきです。出身は佐良浜です。伊良部島中、宮古総合実業高校の商業科卒で、宮古島市役所に入って2年目になります。健康増進課に所属しています。

変わったなと感じるところは、観光客や移住してくる方が増えていることで、イベントなどが増えていると思います。今はまだ大丈夫だと思いますが、地元の人が減っていっているので、何十年後、地元の伝統行事が続いていくのかなって心配があります。

砂川ひよりさん
出身：平良（久松）
所属：宮古島市役所

（市長）
ひよりさんとみきさんから宮古島での生活、特に移住者についてのお話がありました。確かに、本土からの移住者はかなり増えていまして、それに伴って行政ニーズ、特に保育ニーズもだいぶ変わってきているかなと受け止めています。両親が子どもを見られないときに預ける人がいない、一時預かり保育のニーズが新たに出てきていると感じています。保育・介護・医療施設で働くエッセンシャルワーカーをどうやって確保するかという点は宮古島でも大きな課題になっています。住宅や処遇など、難しい部分がありますが、そこはしっかりと解決に向けて進めていきたいと思っていますので、沖縄本島で医学を学んでいる上地さんには、ぜひとも宮古島で診療所を開設していただきたいです。待っています。

もう1点、移住者という呼び方は間違っていないけれども、彼らを移住者と呼ぶことで『よそ者』というふうに聞こえていないかなと最近考えています。逆に宮古を選んでくれた方たちですからね。移住者という言葉を使っているうちはどうしても線を引いてしまっている気がしますが、僕には思いつかないので、若い皆さんには融合できるような言葉を見つけてほしいなと願っています。

皆さんの同級生にも、両親が宮古島に移住してきたという方が結構いらっしゃるかなと思いますので、この世代がうまく架け橋になってくれることを期待しています。

二十歳世代の将来の夢

進学して学業に励んでいる方、すでに社会に出てお仕事されている方もいらっしゃいます。皆さんの将来の夢をきかせてください。

（砂川りょうま）
私の所属が美術のデジタル系の学科で、専攻が結構幅広く横断的に学ぶ学科なので、職種についてはまだ明確に決まってはいませんが、将来はデザイナーとしてエンターテイメント業界に携わっていきたいと考えています。デジタルは物理的な制約を受けないので、離れていても宮古島に貢献できると思うので、この先何年後になるかわかりませんが、宮古や日本をちょっとでも盛り上げていけるような存在になりたいと考えています。

（仲地あお）
将来は航空業界、具体的にはＪＡＬで働きたいと思っています。宮古島を出たのも、本社に近い東京の方が就職に有利なのかなと考えたからですが、今回の帰省で那覇からの乗り継ぎでＪＴＡを利用した際に、ＣＡさんの制服が沖縄の柄ですごく印象に残ったので、沖縄で働くことも視野に入れて考えていきたいです。日本だけでなく、国外の方にも沖縄・宮古の魅力を知ってもらって日本と海外を繋げられるような人になりたいです。

（友利みき）
私は市役所勤務２年目で、先輩職員の皆さんからたくさん学んで、知識をもっと深めて、公共サービスの面で宮古島に貢献したいと思っています。もう一つ、仕事とは関係ないのですが、私は小学校の頃からそろばん塾に通っていてそろばんが好きなので、将来はそろばん塾ができたらいいなってちょっと思っています。

友利みきさん
出身：伊良部（佐良浜）
所属：宮古島市役所

（砂川ひより）
私は４月から市役所で新採用職員として働いています。今は仕事を覚えるので正直いっぱいいっぱいですが、市役所全体が本当に温かい雰囲気で本当に働きやすい環境です。なので、先輩たちの背中を見ながら地元のために動けるような、かっこいい職員になりたいです。

（砂川ななみ）
今は養護教諭、保健室の先生になるための勉強をしています。卒業後は宮古に戻ってきたいと思っています。自然豊かな環境の宮古島で育ったからこその強みがあると思っていて、その中で子供たちの健康とか安全面で学校生活を楽しく過ごすために、養護教諭として関わっていきたいです。

（市長）
あえて養護教諭にこだわった点はなんですか。

（砂川ななみ）
養護教諭を目指したのは、中学生のときに出会った先生がきっかけです。中学の時に仲の良かった親友の子が不登校気味になってしまって、普通に登校している子と保健室登校している子の架け橋の役割や、受験期のメンタルサポートをしてくれたことがとても印象に残っていて、その先生に憧れて養護教諭になりたいとの想いを強く持つようになりました。

（市長）
目標となれるような先生と出会えたことはとてもいいことですね。

（野原れな）
私は現在大学で観光業について学んでいます。大学では観光とか英語、韓国語を学んだり、アルバイトではホテルや大阪万博のスタッフとして働いています。実際に現場で経験を積んでいるので、卒業後は一度大阪で就職してから宮古に戻りたいです。宮古にもヒルトン沖縄宮古島リゾートのような宿泊施設が増えてきているので、そのような業種に就職して、宮古島の観光業に貢献できたらいいなと思っています。

（上地たくま）
私は今、医学を学んでいるのですが、将来は宮古島に介護と保育を兼ね備えた医療施設を作りたいと思っています。こう考えるようになったのが、私の祖父が亡くなった時のことが理由となっていて、いろんな病院を転々としたり、沖縄本島の病院に入院したりしていて穏やかに亡くなることができなかったんです。宮古島で生まれた人はやっぱり宮古島のことが好きで、最期は家族に囲まれて看取られることを望んでいる人も多いと思うので、生活からしっかりと病気の予防ができる診療所があれば自分の望む最期が迎えられることにも繋がると思うので、保育から介護までをカバーする診療所を作りたいと考えています。

ふるさと宮古島市へ期待すること

（上地たくま）
私は若者が輝ける島にしてほしいです。やっぱり宮古島に帰りたいっていう若者が少ない気がしていて、同級生同士で宮古島に帰るかっていう話をすると娯楽施設や住みづらさの話題になってしまいます。島外に住んでいるとそこは比べてしまうので、もう少し娯楽施設が増えてもいいのかなと思います。ただ、自然豊かなところが宮古島の魅力であり、皆さんが言及していたように感受性の豊かさに繋がっている部分でもあるので、そこを守りながら開発していく、本当に難しいことだと思いますが、しっかり進めて欲しいと思います。

（砂川ひより）
上地さんと同じ意見になってしまうのですが、やっぱり周りの同級生達にも宮古にはあまり帰りたくないっていう子が結構いるんです。その理由の多くは娯楽施設がないことなので、徐々にそういった施設が増えると嬉しいなっていう気持ちがあります。

上地たくまさん
出身：下地（上地）
所属：琉球大学

（仲地あお）
私は２つあります。１つはクルーズ船で来島される観光客の方たちがスーパー等に大挙して買い物をすることで地元の人が店舗を利用しづらくなってしまうことです。クルーズ船の寄港は観光業を盛り上げるためにも必要なことだと思うので、難しい問題ではありますが、少しでもいい方向に変わってくれるといいなと思います。
もう１つは公共交通機関についてです。公共交通機関がどうしても少なくて、学生だと塾や買い物に行きたいときも両親が仕事だといけなかったり、バスの本数が少なかったりで不自由に感じることが度々あったので、なにか新しい交通機関が増えてくれればいいなと思います。

（野原れな）
私は出身が上野で、地域住民との関わりが深かったので、子どもたちが地域住民との繋がりのなかで楽しめる島であってほしいと思っています。私自身も将来は宮古島に戻りたいと考えているので、今の子どもたちが大人になったときに、戻ってきたいと思えるような島として残っていってほしいです。

（友利みき）
先ほども申し上げたのですが、伝統行事が途絶えないように盛り上げていってほしいことと、宮古島で生まれ育った方が島を出た後、もう一度戻ってきたいと思う方が少なくなっていて課題になっているかと思うので、帰ってきたいと思える島、子育てがしやすい島になっていくといいなと思っています。

（砂川りょうま）
私が宮古島市に期待することは、宮古島市特有の人の温かさであったり、雰囲気であったりとか、豊かな自然が守られていくことを望んでいます。公共交通機関や内地との物理的距離と言った問題は技術の発展やデザインで改善されていくと思うので、やっぱり今持っている強みを守っていくことを一番期待します。

（砂川ななみ）
私が期待することは、りょうまさんも言ったように自然を残してほしいです。幼い頃にセミを取りに行ったり、みんなで自然の中で遊んだこと、そういう思い出は大人になっても忘れないし、そういう体験が感受性の育成に繋がるのではないかと思っています。あとは観光客がたくさん来島していて人の交流が盛んになることはいいことだと感じる反面、増えすぎて地元の人たちとちょっと違う距離感を感じることが増えて、人の交流がポジティブに影響していくことを期待したいです。

嘉数市長から　二十歳世代へのメッセージ

（市長）
皆さん、貴重なご意見ありがとうございました。お伺いしたところ、市の自然環境を保全すべきですとか、観光業と市民生活のバランス、公共交通の充実というご意見がありました。それから伝統行事の保存、さらには子育て環境の整備があって、総括すると野原さんと上地さんが言ってくれた、戻りたいと思える島、若者が輝けるような地域・島、そういうところにまとめられるのかなと思います。
私は市長に就任してまだ半年ちょっとですけども、宮古島市で一番にやらないといけないのは、子育て環境の整備、遊べる場所や遊具の問題であったり保育の問題であったり、そういった施設環境の整備ですね。それから若者がここに住み続けられるような、ある

いは一度島を出た人が戻ってこられるような住宅政策、定住を促進できるように、家賃高騰ですとか地価の高騰という課題がありますので、そこを真っ先に解決していかなければいけないと感じています。

また観光業と市民生活のバランスという話がありました。本市と国内各地を結ぶ直行便が増え、韓国・香港・台湾など国際線も就航しています。観光需要が増える一方で、過剰になるとやはり市民生活に大きな支障が出てしまいます。何事もバランスが大事だと思っていますので、島の人も、訪れる人も十分に宮古での生活や余暇を過ごせるような環境を作っていこうという意識を持っています。今日は皆さまから貴重なご意見をいただいたので、これからの市政の参考にさせていただきたいと思います。

お話しいただいた皆さまの将来展望や夢についても、市として、私個人としても応援していますので、ぜひ前を向いて頑張っていただきたいです。そして将来は宮古島を支える存在として活躍してくれることを期待しています。本日はありがとうございました。

嘉数 登　宮古島市長

市制施行20周年記念ロゴ 制作者インタビュー

宮古工業高校２年
寺町 颯 さん

宮古島市制施行20周年記念ロゴマーク公募企画に応募したきっかけ

学校でロゴマーク募集のチラシを見かけ、自分にもできるかもしれないと思い挑戦しました。初めての経験でしたが、楽しみながらアイデアを形にすることができました。

描く過程でこだわった点と、ロゴに込めた個人的な思いを教えてください。

シーサーは図形を組み合わせて作るのが難しかったですが、守り神として絶対に入れたかったです。また、市花のブーゲンビレアや市魚のグルクンもデザインに盛り込み、島の豊かな自然がこれからもずっと続いてほしいという願いを込めました。

受賞を知ったときの感情や、周囲の反応など、感想を教えてください。

受賞を知ったときは、「まさか自分が選ばれるとは」という驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。友達や家族から褒められ、親の知り合いからも祝ってもらい、とてもうれしい気持ちになりました。

これからの目標や夢について教えてください。

今後の具体的な目標や夢はまだはっきり決まっていませんが、それを見つけるために様々な経験を積んでいきたいです。また、将来に役立つ資格もたくさん取得し、自分の可能性を広げていきたいです。今回の経験が、自分にとって新しい挑戦をする勇気につながりました。

宮古のお気に入りの場所を教えてください。

私のお気に入りの場所は「渡口の浜」です。夏休みに友達と訪れて、きれいな海で泳ぎながら楽しいひと時を過ごしました。穏やかな雰囲気が好きで、いつでも気軽に行けるこの場所が大好きです。

寺町さんデザインの
20周年記念ロゴ

宮古島のいまむかし

宮古島市のさまざまなデータを、統計情報や各種調査をもとに昔と比べてみました。

1 人口

総人口
2005年 56,243人 ▶ 2024年 55,588人

男性 28,030人 ▶ 28,244人

女性 28,213人 ▶ 27,344人

2 世帯数

2005年
22,548世帯

2024年
30,599世帯

3 待機児童数の推移

2009年 19人
2011年 89人
2025年 0人

4 博物館の入館者数

2006年 9,569人 ▶ 2024年 21,771人

5 図書館の貸出冊数

2006年 101,897冊 ▶ 2024年 252,393冊

6 入域観光客数

2006年
389,358人

約3倍

2024年
1,192,871人

7 市の歳入

2006年
327億2,942万円

2024年
462億3,778万円（見込み）